

## ラリグラス

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナングール マダーブ ナラエン

ネパールは標高 70～8848m までである多様性に富んだ国である。ネパールで見られる花々はおよそ 6500 種類あると言われている。その中でもラリグラス（ネパール語で赤い花の意味）は特別な花で石楠花（シャクナゲ）のことである。ツツジ科に属す常緑広葉樹でネパールでの開花時季は 2～5 月、枝先に集まって花がつく。葉は長い楕円形で、樹高は 3～20m になる。ネパールには 30 種類以上ものシャクナゲがあり色鮮やかな赤やピンク、白がある。花びらを漬物やお酒にして食用にもする。（葉には毒がある）赤いヒマラヤ石楠花はネパールの国花になっている。



上記は国の紋章で、民主化後の 2008 年 5 月 28 日以降にできたもので、ラリグラスに囲まれた山はエベレスト、中央の一番高い位置に国旗が掲げられている。山の下にはネパールの国土が印され、国土の周りは緑色でカトマンズや農地を表している。その下には手を繋ぐ男女の手が平等を象徴している。その下に稲、一番下にサンスクリット語で、母と生まれ故郷は何よりも素晴らしいとの言葉で締め括られている。

ネパールでは登山シーズンともなる秋から翌年の春にかけて空気が澄んでいて山の眺望が素晴らしい。また、この時季に咲く花の種類も豊富で、数ある花の中

のラリグラスの開花シーズンでは色鮮やかな花々が訪れる人々を癒してくれる。

アンナプルナ・ダウラギリのトレッキングルートでは多くのラリグラスが自生する。トレッキングの一日は、朝はアンナプルナ山脈がうっすらと見え始め、明るくなるにつれて徐々に 8 千メートル級のヒマラヤが色を変えながら姿を現す。標高が上がるにつれラリグラスの色彩は淡くなっていく。標高約 2,000m のガンドルン村では白いラリグラスも見ることができる。

トレッキングで思い出すことの一つに日本の大学生たちとネパールへ行った 1992 年のものがある。山一面に咲く花を見た私は感動して「綺麗なフルが咲いている」と口にした。ある日本の方から「これはネパールの国花でシャクナゲと言うよ」と教えてもらい、恥ずかしい思いをしたことがある。私はネパールの国花はラリグラスと知っていたが、実際に興味を持って見たことがなかった。当時ネパールの学校では植物の勉強をする機会がなく、日本の子供たちが幼い頃から植物や昆虫のことを学ぶという教育ではなかった。ネパールでは大半の人は花の名前をフル（ネパール語で花）と言うだろう。宿営地のテント周辺もラリグラスに囲まれ、名前を覚えたことで思い出は鮮明なものとなった。

